

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 10 日作成)

小委員会名	磁気環境小委員会		主 査 名：新納敏文 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (電磁環境運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：吉野涼二
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1. 建物の磁気環境計測・評価法の学会規準化推進 2012 年度計画：学会基準案の作成 (原稿完成) 2. 建物の磁気環境の現状に関する調査 2012 年度計画：データ整理, 磁気環境データの公開 3. 低周波磁界の健康影響に関する調査		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (応募無)		
	主査：新納敏文 (鹿島建設) 幹事：宇治川 智 (鹿島建設), 田野井淳一 (東急建設) 委員：石塚一男 (リケン環境システム), 江口晃司 (日本電子), 川瀬隆治 (東急建設), 久保直也 (きんでん), 國分 誠 (清水建設), 榊原宏行 (関電工), 榊原 満 (オータマ), 篠 健次郎 (電機資材), 下川眞男 (技研興業), 田代英太 (波動システム研究所), 増原秀樹 (日立製作所), 三浦一幸 (竹中工務店)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	5,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 「電車線近傍における変動磁場の計測評価技術 (仮題)」の粗原稿完成, 「建築物の電気室から漏洩する磁場の予測・対策・計測評価技術 (仮題)」の 原稿完成→計画通り 2. 大会発表 1 件, 調査結果は 1 の中で公開予定→計画通り 3. 電磁界情報センターから情報収集→計画通り
委員会活動の問題点 ・課題	
運営委員会関連 刊行物・催し物	< 催し物 > 建築電磁環境に関する研究発表会 2013 (資料名) 同上

参加者 35 名

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、建物の磁気環境に関して具体的な問題点を抽出し、解決策を提示すべく3つの目標を掲げ、4年間活動を行った。それぞれの成果を以下に記す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建物の磁気環境計測・評価法の学会規準化推進 <ul style="list-style-type: none"> ・計測における課題（計測の同時刻性、計測器の選定、サンプリング周波数、ノイズの処理方法、データ記録装置の選定、計測器の校正）の解決 ・評価における課題（評価方法、三軸合成の方法、地磁気のキャンセル）の解決 ・計測器・データ記録装置のノイズ評価試験 ・「電気室から漏洩する磁場の予測・対策・計測評価技術（仮題）」原稿完成 ・「電車線近傍における変動磁場の計測評価技術（仮題）」粗原稿作成 2. 建物の磁気環境の現状に関する調査 <ul style="list-style-type: none"> ・電気鉄道（新幹線・在来線）周辺の磁気環境計測 ・自動車・エレベータ・変圧器・ケーブル・バスダクト等のシミュレーション ・磁場計測・シミュレーションのデータ整理 3. 低周波磁界の健康影響に関する調査 <ul style="list-style-type: none"> ・商用周波数を中心とした低周波磁界の生体及び健康影響に関する情報収集（電磁界情報センターより） <p>成果の公表として、2011年度日本建築学会大会（関東）で2件、2012年度日本建築学会大会（東海）で1件の発表を行った。</p> <p>今後は、2件の刊行物「電気室から漏洩する磁場の予測・対策・計測評価技術（仮題）」、「電車線近傍における変動磁場の計測評価技術（仮題）」として刊行する予定である。本小委員会で得られた成果は、この中に盛り込まれる。</p> <p>「電気室・・・」に関しては、来期、企画刊行運営委員会の中に「電気室の漏洩磁場刊行小委員会」を立ち上げ、一般刊行物として2014年度の刊行を目指す。</p> <p>「電車線・・・」に関しては、来期、「変動磁場計測評価小委員会」を立ち上げ、日本建築学会環境規準の策定を目指す。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。